

2022年 年頭所感

一般社団法人 不動産流通経営協会
理事長 伊藤 公二

2022年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

わが国経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による厳しい状況が緩和されつつあります。ワクチンの普及や経済対策等の政策効果、海外経済の改善等も相まって、感染症の影響が和らぎ社会経済活動が徐々に正常化に向かう中、持ち直しが期待されます。一方で新たな変異株の流行の拡大等コロナ対応の長期化が内外経済を下振れさせるリスクにも十分注意を払う必要があります。

既存住宅流通市場は、コロナ禍においても、住宅仲介の取引がコロナ禍前の水準に回復し、昨年1年間を通じて順調に推移しました。在宅時間が増加し、住まいについて考える機会が増えたことなどによって購入ニーズが高まっております。この点、現下のWithコロナのみならず、Afterコロナにおいても、住宅の住替え等に関する潜在的な需要は底堅いと認識しており、Afterコロナを見据えたあるべき既存住宅流通市場の実現が当面の課題となります。

当協会では、『FRK提言2020』に掲げた目指すべき既存住宅流通市場の実現に向けた具体的方策について検討を開始しました。本年は、その成果として、既存マンションに着目した流通支援策や建物品質評価制度の再編など、「安心安全に取引できる市場」の実現の観点からの提案を纏めていくことが重点課題の一つと考えております。また、コロナ禍を契機に、新しい働き方や生活様式が定着していくことが見込まれる中、人々の住宅に対するニーズは益々多様化していくことが想定され、複数拠点生活ニーズの充足支援策の提案など「厚みのある市場」の形成にも引き続き取り組んでまいります。

当協会は、本年も、会員相互の結束のもと、内需の牽引役である不動産市場において、既存住宅流通活性化と不動産流通業界のさらなる発展に向けて邁進してまいります。